

無憂樹

『仏旗』



暑い暑いと言いながら、涼しさを通り越して急に寒くなってきました。少しでも秋を感じて過ごしていきたいものです。

最近お寺で法要をおこなう際に、同じような質問をもらいます。「この旗はなんですか」「この旗の色にはなんの意味があるんですか」という質問です。この旗を『仏旗』と言います。浄尊寺でも法要の際には掲げております。この仏旗について浄土真宗本願寺派鹿児島教区が説明しておられたのを紹介さ

令和7年11月号

浄尊寺
熊本市西区田崎
1-4-39
TEL・FAX
096-354-6530

浄尊寺
インスタ
グラム



せて頂きます。

「仏旗とは、お釈迦様（仏陀）の教えを守り、伝えていくため全世界の仏教徒共通の旗（シンボル）として使用されているもので、信仰の証でもあります。お寺の法要（行事）等の際に、掲げられることが多いのでご覧になられた方も多いのではないでしょう。か。仏旗が世界の仏教徒共通の旗（シンボル）として使われるようになったのは、1950

年にスリランカで開催された、第一回世界仏教徒会議以降です。スリランカは、南アジアのインドの南に位置する島国で、国民の約7割が仏教徒ともいわれています。観光名所でもある仏歯寺には、お釈迦様（仏陀）の歯が安置されているといわれています。今もなお、色濃くお釈迦さまを感じることができ、国で制定されたのが仏旗ということになります。お釈迦様（仏陀）がすぐれた力をはたらかせる時、仏陀から青、黄、赤、白、樺及び耀きの六色の光を放つと小部經典というお経の無礙解道の項に説かれていることからこれらの色が使われているそうです。仏旗には、青、黄、

赤、白、樺が使用されており、それぞれに意味があります。青色は、お釈迦様の頭髪の色で乱れない心。黄色は、お釈迦様の身体の色で揺るぎない力強い心。赤色は、お釈迦様の血液の色で、大いなる慈悲の心。白色は、お釈迦様の歯の色で、清浄なる心。樺色は、お釈迦様の袈裟の色で、惑いのない心。と言うことができます。つまり、仏教徒であることの自覚をすると同時に、お釈迦様（仏陀）の教え・心を知らせていただく。またお寺の法要にお参りいただいた際は、仏旗からお釈迦様の教えをいただきます。